

第2回茨城沿岸津波浸水想定検討委員会 主な意見と対応

日時：平成18年3月27日（月）

13：30～15：30

場所：つくば国際会議場 406号会議室

番号	主な意見	対 応
1	○波源の設定 ・ 明治三陸タイプ地震：ソフトもハードも含めて対策を行う地震 ・ 延宝房総沖地震：都市計画なども含めた長期的な計画として対策を行う地震 以上を対象とする津波として承認	・ 中央防災会議の公表している明治三陸タイプ地震と本調査にて波源設定を行う延宝房総沖地震津波を対象津波とする。 ・ 延宝房総沖地震津波に関しては、佐竹委員、今村副委員長、都司教授（東大）に痕跡資料および調査方法についてヒアリングを行った上、現地調査を行い被災集落の位置、高さを精査して、痕跡高を推定した。同時に行っている千葉県での調査から推定された痕跡高をあわせて検証計算を実施し、震源パラメータをチューニングした。 →震源パラメータの設定案について第3回委員会にて説明。
2	○断層パラメータ ・ 延宝房総沖地震：痕跡高調査を実施し、それにあわせて波源を調整しながら使用 ・ 明治三陸タイプ地震：中央防災会議の断層パラメータを使用	
3	○地形モデル ・ 計算結果は、局所的な今回のシミュレーションモデルでは表現できない危険性を考え、現地を良く知っている人間や現地踏査を行いながら部分的にでもチェックする。	・ 現地踏査を行い、浸水範囲内で盛土などがアンダーパスとなっている部分について確認を行う。そのような場所がある場合は、地形データ等进行处理し、適切な浸水範囲となるようにする。浸水予測結果が出たところでもこの視点でのチェックを行う。

4	○河川遡上 ・ 河川遡上は、大北川をモデルとして、流量がある場合とない場合の 2 つで検討してその結果で判断する。計算結果が大きく異なる場合は、流量がある場合で計算することを検討する。	・ 藤間委員に指導を受けながら、大北川で先行して流量を考慮した河川遡上計算を別途行った。 →流量を考慮した場合としていない場合の浸水範囲の結果を第 3 回委員会で示し、河川遡上シミュレーションにおける流量条件について決定する。
5	○被害想定 ・ 今回の計算結果は東海村の原子力発電施設などの関係機関に説明する。関係機関と情報交換し、可能であり、住民に説明すべきと判断されれば図面などに示す。 ・ 被害想定は、住民意識について全国での標準的な場合、意識が低い場合などで結果を示し、避難所などを考えて茨城県として住民にメッセージが伝わる被害想定を行う。	・ 原子力発電所等の浸水範囲が確定後、関係機関と協議を行い、対応を決定する。 ・ 指摘のとおり、住民意識などについて場合分けを行った被害想定を実施する。 →第 3 回委員会で、具体的な被害想定条件（係数等）について案を示し、検討する。